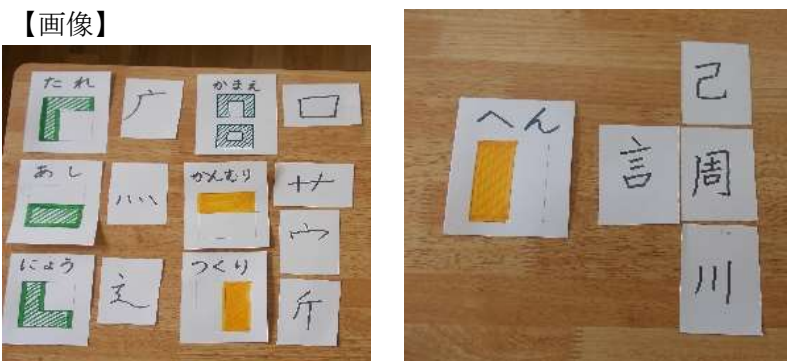


## 教材・支援機器活用実践事例

### 【漢字を書くことが苦手な生徒へ理解を促すための教材】

	実施年度	平成28年度	
授業について	教科名等	自立活動	
	単元・題材名	「へんやつくりなど部首を組み合わせて漢字を作ろう」	
	授業における教師のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字に対する苦手意識をなくす。</li> <li>既習の漢字や熟語につなげて考えさせる。</li> <li>文字を正しく丁寧にバランスよく書く。</li> </ul>	
	授業における子どもの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書や資料から漢字を調べることができる。</li> <li>調べた漢字をへんやつくりなど部首に分けたり、組み合わせたりできる。</li> <li>調べた漢字が使われている熟語を見つけ、ノートに書くことができる。</li> </ul>	
子どもについて	学校・学級・学年	中学校 通級による指導（LDによる学習障がい）	
	対象の障がい	LDによる学習障がい	
	授業形態	個別指導	
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある程度知識があり、漢字を読むことはできるが、書くことに困難がある。ノートは、乱雑に書いている見えるうえ、読みにくい。ノートに書かれた漢字は、記号のようである。板書を書き写すのに時間がかかる。（左利き）</li> </ul>	
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「へん」「つくり」などの漢字部分カード	<p>【画像】</p> 
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>パズルやゲーム感覚で行えるよう、楽しい雰囲気での学習させる。</li> <li>既習の漢字や熟語に結びつけることによって漢字に対する興味・関心を高める。</li> <li>自分が調べた漢字を丁寧に表記させ、「相手（読む・見る）がわかるように丁寧に書こう」など書くことに目標意識を持たせる。</li> </ul>	
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> <li>はじめにカードの組み合わせを行ったが、思うように進まないため、途中からごんべんを使った漢字を調べた。辞書を使って漢字を探し、それをへんやつくりに分解してカードで確認することにした。書くことに困難さがある生徒でも、一人一人パターンが違うので、同じカードを使うにしても使い方を変えていくようにする。</li> <li>ノートは、原稿用紙形式や大きめの字が書けるものがよい。</li> </ul>	
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>辞書で調べながら、「日記の記だ」とか、「調べるもある」など声を出しながら調べており、興味を持って取り組んでいる様子が見られた。「ごんべんは、言葉という意味だから言葉に関係する言葉が多い」など、へんの意味にまで話が発展した。「書いてみるとわかりやすい」など納得したように話しながらノートに書いていた。今後の課題は、ノートや板書を相手にわかるように表記できるようにすることである。草かんむりやきへんなど、生活に密着した漢字を取り上げ、知識につなげながら学習をすすめていきたい。</li> </ul>	